フィールドノート

2022 年 6 月〜12 月

Slack「その他の自然情報チャンネル」への投稿より抜粋。6 月〜12 月の自然観察記録。

コイチゴツナギ　2022.6.5

北野台で見つけたコイチゴツナギの備忘録。刈り取りで通常より小ぶりになって咲いているバケヌカボも近くにあります。

【コイチゴツナギの同定メモ】

・多年草である。
・植物体全体は濃緑色。
・花序は長さに対して幅が狭い。(花序枝が短い。)
・花序枝には基部から小穂が付く。
・稈(茎)や葉鞘は著しく扁平で、触ると硬い。
・葉身はボート状にはならず先端はシャープに尖り、やや捻れる。
・葉舌は低く、切形(台形)で目立たない。
・下方の葉と上方の葉を比べると、長さはほぼ同形同大である。(ナガハグサのような花序下方の“止め葉”は無い。)
・稈下部は節ごとに強く折れ曲がり、最初地表を這って斜上し、やがて直立する。
・広範囲に群生することは少なく、路傍や造成芝地に単生あるいは複数個体がまとまって生育する傾向がある。

バケヌカボ

クモキリソウ　2022.6.12

毎年観察を続けている蓮生寺公園のクモキリソウ、今シーズンは 20 株ほどが見頃でした。
この林床は藪蚊が多い誰も入らないところ。ベニシュスランやセンブリなども自生しています。

ヒメザゼンソウ　2022.6.15

片倉城跡公園のヒメザゼンソウが開花しました。本当に小さくて、その姿はまさに“親指姫”です。
シロバナカザグルマはすでに果実、アズマツメクサのある菖蒲田のハナショウブが見頃でした。

アオテンマ　2022.6.17

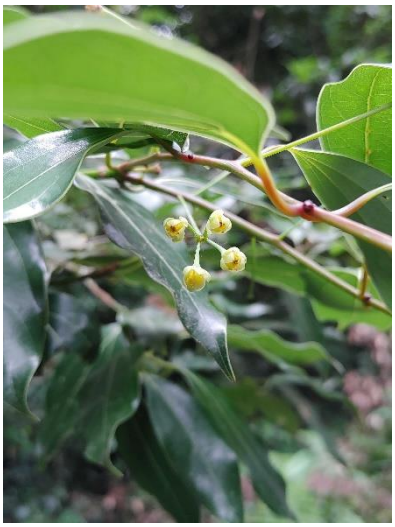
橿原町のフリースクール「ならはらの森なかの学舎」の敷地内で、パーキッズの一人が珍しいアオテンマを発見し、案内してくれるということで、花が枯れる前に急いで見てきました。
基本種オニノヤガラが複数立ち枯れているそばに、一際鮮やかな黄緑色をしたアオテンマが全部で 5 株あり、こちらはまだ咲いていてくれました。感動の初対面です。
また、離れて 1 株、全体が明らかに真っ白の小さな株が立ち枯れていました。別系統のシロテンマと言いたいところですが、花期などに疑問があり、これもアオテンマの色素が限りなく薄い個体なのかもしれません。
なかなかお目にかかれない野生ランを見ることができた上に、少し虫とりをしてヒシモンナガタマムシやナガタマムシの一種をたくさん見つけたり、目の前をキジが歩いていたりと、改めて自然の質の高さに驚かされました。
住宅地のど真ん中、陸の孤島のような小さな雑木林ですが、この地域に棲む動植物にとってはかけがえのない空間になっているのですね。

ニセシラゲガヤ　2022.6.18

長年の課題であったニセシラゲガヤ(モリシラゲガヤ)をやっと確認できました。
以前から知られていた絹ヶ丘の生育地は既に住宅が建って消失しており、打越町の生育地は藪になってしまって詳しい場所が特定できずにいました。
2012 年の標本を最後に、由木周辺では所在がわからなくなっていたわけですが、諦めきれず、この時期になると当てもなく彷徨っていました。
打越町のバイパス沿い法面の藪の中から、わずかに数個体が発生しているのを見つけた時には、嬉しさはもちろんなのですが、呪縛から解放されたような不思議な気持ちでした。
何の変哲もないこんな雑草に翻弄されてきた私。いよいよ末期症状のようです(ﾟ∀ﾟ)

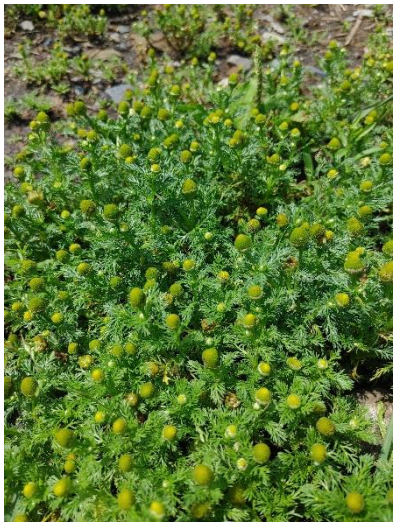
神武寺の植物　2022.6.22

6 月の NHK 講座は三浦半島の神武寺へ遠征してきました。コースは東逗子駅から神武寺本堂への往復です。
雨天で延期によりこの日の実施となりましたが、見事な晴天に恵まれました。
照葉樹林帯の木々の緑が、照り付ける日差しを和らげてくれました。
ケイワタバコが咲き残っていてくれたほか、あちこちで野生化したタイワンリス(クリハラリス)を見かけたり、イヌビワのイチモンジハムシやナガサキアゲハの幼虫を観察したりと、楽しい道中でした。以下は見かけた植物の備忘録です。
表参道を歩き始めてすぐ、早くも満開のヤマユリに出迎えられ、ケムラサキニガナ、ケケンポナシ、オオアリドオシ(ニセジュズネノキ)の果実などが行く先々で見頃でした。
その他、特徴的なものとしてはシュウブンソウ、シンミズヒキ、ヒメガンクビソウ、ヤマムグラ、ヤマカモジグサ、ヒメドコロ、キハギ、ツヅラフジなどがありました。
また、樹木はアカガシを筆頭に、ウラジロガシ、スダジイ、ヤブニッケイ、ヒメイタビ、イタビカズラ、イヌビワ、サカキ、フウトウカズラなどの照葉樹が多く見られました。
神武寺は、関東有数のシダの宝庫でもあります。
暖地性の種を中心に、ヒトツバ、ヘラシダ、ノコギリシダ、オリヅルシダ、フモトカグマ、ホソバカナワラビ、ナチシケシダ、アスカイノデ、ミウライノデ、ミツデウラボシ、ホラシノブ、コモチシダ、マメヅタなどをじっくりと堪能しました。
また出かける機会があれば、今度は鷹取山や神武寺駅方面の山道もゆっくり歩いてみたいと思います。



コシカギク　2022.6.22

東逗子駅前にある小さな広場の一面にコシカギク(オロシャギク)が群生していました。
アジア北東部または北米原産の１年草で、特に北海道に多い外来雑草とのことです。
初めて見ましたが、思っていたよりも頭花が大きくて驚きました。舌状花はありません。
花はリンゴのような香りがするとの記述があり、一同嗅いでみました。私にはよくわからず、残念！



コゴメギク　2022.6.24

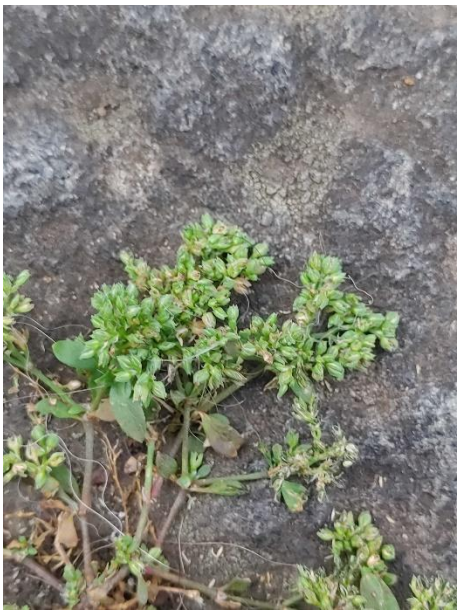
トイレを借りに立ち寄ったコンビニでビックリ仰天！！駐車場にコゴメギクとチャボタイゲキが大群生していました。
コゴメギクは長年探し求めていた外来種で、それがこんなにいともあっさりと。ハキダメギクとは一見して異なる雰囲気でした。（舌状花の大きさと冠毛の有無、茎の伸ばし方、全体に毛が少ないことなどが識別ポイント。）
場所はファミリーマート日野バイパス店（日野市旭が丘）。道路向かいは八王子市高倉町なので、もっとよく探せば八王子側にもあるかもしれません。それにしても、願えば叶うものですね！

ヒメハルゼミ 2022.7.1

蓮生寺境内付近にて、ヒメハルゼミの撮影に成功しました。
あれだけたくさん鳴いているにもかかわらず、姿を見つけるのはほぼ不可能に近いだろうと諦めていました。
というのも、鳴き声のピークである 19 時頃、生息地の照葉樹林の中はすでに真っ暗であり、鳴いている場所もたいていは、はるか樹上 10m 以上の高さだからです。
そこで、日中も 2 時間に一度くらいの間隔で一斉に鳴くことを突き止め、タイミング勝負で捜索してみることにしたのですが、これが見事に当たり！
運良く頭上 5m くらいの高さで一瞬だけ鳴いた個体を発見、近くの木に登って観察することができました。
これでやっと、ppt などに自分の撮影した写真が使えます。多くの方に、別所地区の風物詩として認識してもらえたらと思っています。

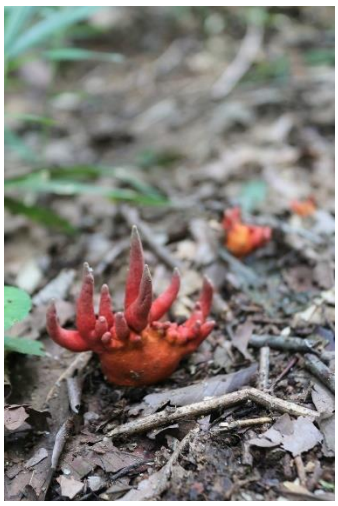
ヨツバハコベ　2022.7.19

先日、横浜赤レンガパークの夜のイベント「イヌヨイチ」に出かけてきました。
人よりも犬のほうが多いんじゃないかという広い会場で、暗くなるまでの時間は雑草散歩。
さっそく足元に初見のヨツバハコベを発見！このほか、タンキリマメ、ヒメクマツヅラ、ダイコクマメグンバイナズナなどがありました。さすがは外来植物の玄関口。いつか、雑草だけを目的にゆっくり歩いてみたいと思いました。



真夏の里山植物　2022.7.22

7 月の NHK 講座は平山城址公園から堀之内宮嶽谷戸を廻りました。
バス到着までの間に駅前の用水路で水草（エビモ・アイノコイトモ・ホザキノフサモ・オオカナダモ）を観察、すでにお腹いっぱいになりつつ、平山城址公園東園へ。
日陰で、トサノクロムヨウラン群落やクモタケ、カエンタケ、エダナシツノホコリなど、不思議な植物や菌類を皆で一斉捜索したり、満開のヤマユリやケムラサキニガナの花を観察したり、アサギマダラの優雅な舞いを楽しんだりと、たくさんの出会いを満喫することができました。帰りはかたくりの家に立ち寄り、パンと冷たい飲み物で疲れを癒しました。



ギンイチモンジセセリ　2022.8.17

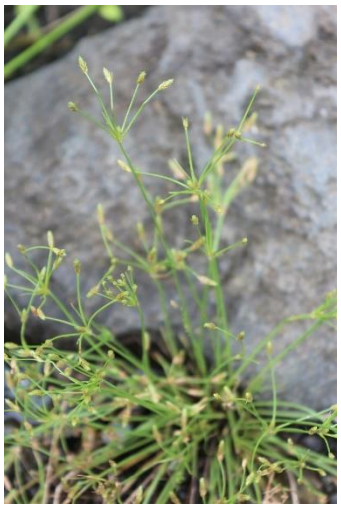
パーキッズ活動で、あったかホールから徒歩２分の浅川河川敷で生き物調査を行いました。天気は予想に反して晴れ！
あったかホール敷地内では、コクワガタ、ゴマダラカミキリ、カナブン、ゴマダラチョウ、オオアオイトトンボといった樹林性昆虫の生息を確認しました。
河川敷には、草原性のショウリョウバッタモドキ、ミヤマアカネ、ブチヒゲカメムシなどが多数いて、手で簡単に捕まえられたのでじっくり観察。
また、特記事項として、環境省 RDB で準絶滅危惧種、東京都 RDB で準絶滅危惧種にそれぞれ指定されているギンイチモンジセセリ（夏型）を複数個体、確認しました。
多摩川本流や日野市域の浅川に局所的に分布していることは知っていましたが、八王子市域の浅川で見られるとは思っていなかったので、とても嬉しい発見でした。
水生生物のほうも、オイカワ、アブラハヤ、シマドジョウ、カワヨシノボリ、カワリヌマエビなどが次々と網に入り、水の中も外も生き物でいっぱい、浅川の生物多様性をみんなで実感することができました。

ベニイトトンボ　2022.8.24

8 月の NHK 講座は少し羽を伸ばして葛飾区の水元公園へ出かけました。
何といっても、東京ではここでしか見られない天然記念物のオニバスが見事でした。今年は当たり年らしく、水面が葉っぱに覆われ、花も 100 花ほど咲いていました。ごんぱち池のアサザや、園内に群生するハスも美しく、癒されました。
下見で開花中だったゴキヅルはすでに刈られたあとでしたが、サデクサ、チクゴスズメノヒエ、ホソミキンガヤツリなど、多摩地域では見かけない雑草類をじっくり観察できたほか、念願のベニイトトンボに出会うことができました。
水面にマツモやヒシが漂う薄暗い水路で 10 頭ほど確認、交尾・産卵行動も観察しました。東京では水元公園や北の丸公園など 23 区の数ヶ所で確認されているだけの希少種です。
その他、名物のウチワヤンマやナミガタチビタマムシなど、改めて水元公園の生き物の豊かさを実感したのでした。

河口湖の植物　2022.8.27～28

旅行で山梨の河口湖へ行ってきました。お天気にも恵まれて楽しい時間を過ごしましたが、ここでも邪念が。
「河口湖といえば・・日本国内で、阿寒湖＋屈斜路湖と富士五湖にしか生育しないレア植物が・・見ないと帰れない！」
ということで、娘を抱き上げ、湖畔の水際までダッシュ！
場所はあてずっぽうでしたが、運良くお目当ての「カヤツリスゲ」を見つけることができました。
おまけに、周囲にはスジヌマハリイ（環境省 RDB）やヒメホタルイ、メアゼテンツキ、アオガヤツリ、ミゾオホオズキなど、湿生植物があるあるある。子どもが大きくなったら、湖畔一周植物散歩、いつかしてみたいです。
また、ケフシグロ、ウシタキソウ、ホソノゲムギ、ヌカイトナデシコなど思いがけない出会いもありました。

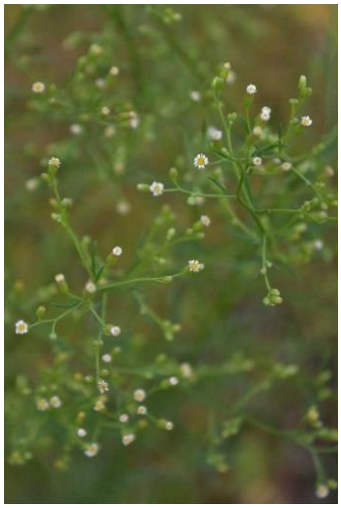


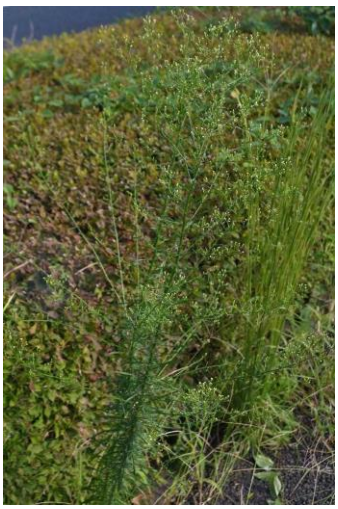
キバナノマツバニンジン　2022.9.15

松木小入口から京王堀之内駅方面へ下る線路沿い遊歩道にキバナノマツバニンジンが点々と咲いていました。
例年、草刈りされているところなのでこれまで気付かなかったようです。午後から開花するちっちゃ可愛い花です。
別所や堀之内の造成草地にも散発的に発生します。

ケナシヒメムカシヨモギ　2022.9.15

雑草初心者でありながら、日々の観察で識別能力をめきめき進化させている知人から、関東内陸部では珍しいケナシヒメムカシヨモギを発見したとの知らせがありました。場所を伺って早速見に行くと、松木のニュータウン通り沿い、自転車店～引越センターまでの間の歩道沿いにたくさん咲いていました。普通なら見過ごしてしまいそうです。すごい！
由木では、2020 年に長池公園の一角に発生したのが唯一の記録であり、ヒメムカシヨモギとの識別ポイントは以下です。
・茎、葉ともに無毛。
・花序枝が水平～やや斜上ぎみに開出し、頭花は枝上方に偏って付く。
・総苞が小型で無毛。
・花期が他種よりも１ヶ月近く遅い。
・総苞の先端が紫色。





フシネキンエノコロ　2022.9.21

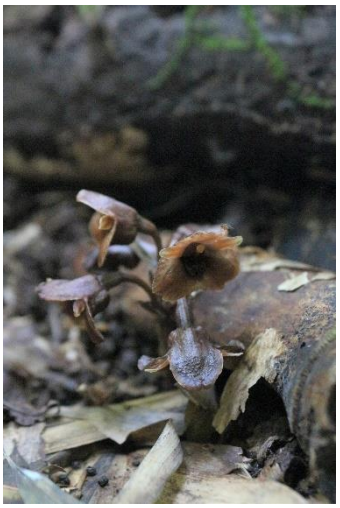
9 月の NHK 講座は、この講座では 2 回目となる多摩川・浅川合流点で実施しました。
万願寺駅前の植え込みのヤブカラシから観察をはじめ、すぐそこに見える河川敷までなかなか辿り着きません。
北川原公園入口の路傍で、立派なフシネキンエノコロを発見。その後も外来アサガオ類やカワセミなどをじっくり観察しつつ多摩川堤防へ。目的の一つ、ツルフジバカマは今年、花付きが悪く、花序を付けていたのはたったの 3 株のみ。
その代わり、ヒメシオン、ナンテンハギ、ツリガネニンジン、オオフタバムグラなどが堤防草地を彩っていました。

シベリアメドハギ　2022.9.21

9 月の NHK 講座、後編です。堤防を下り、河川敷へ向かう道中でニガカシュウのムカゴを試食。苦い！！
大エノキの下で昼食をとり、河川敷(高水敷)の植物をまったり観察しました。
シベリアメドハギをはじめ、カワラヨモギ、オトコヨモギ、ヒメクマツヅラ、ヒメマツバボタンなどが見頃でした。枯れ葉そっくりのヒメエグリバやアレチウリに群がるブチヒゲカメムシなど、昆虫にも目を向けました。
頭上では 10 羽ほどのコシアカツバメが飛び交っており、その様子を見ていると、川の水面近くを珍鳥クロハラアジサシが飛んで行きました。レンズ交換でもたついている間に、石田大橋手前で折り返して下流方向へと飛び去ってしまいましたが、双眼鏡で特徴を確認したので間違いないでしょう。あとで調べてみると、八王子市・日野市では初記録であることがわかりました。(※多摩市、川崎市では過去に記録あり。)もともと淡水域に飛来する種類ではありますが、タイミング的には渡りの途中、先日の台風に遭って飛ばされてきたのだと予想されます。
そんな思いがけないサプライズもあり、上半期最後の講座も大いに盛り上がりました。

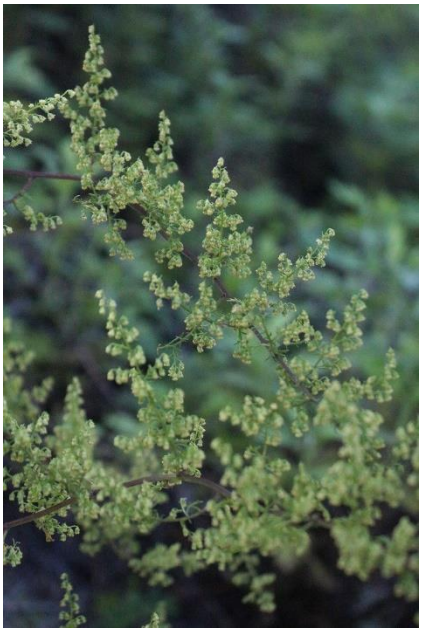
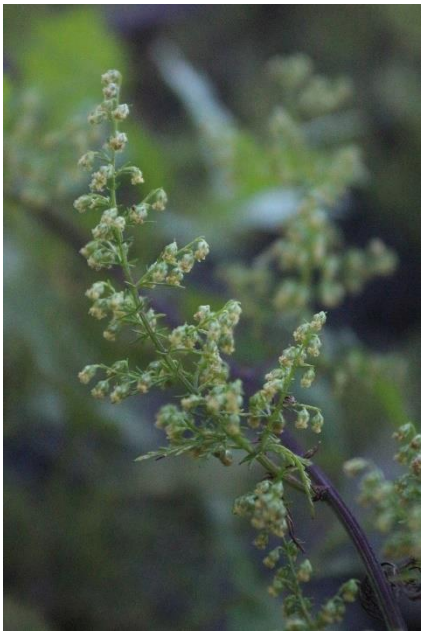
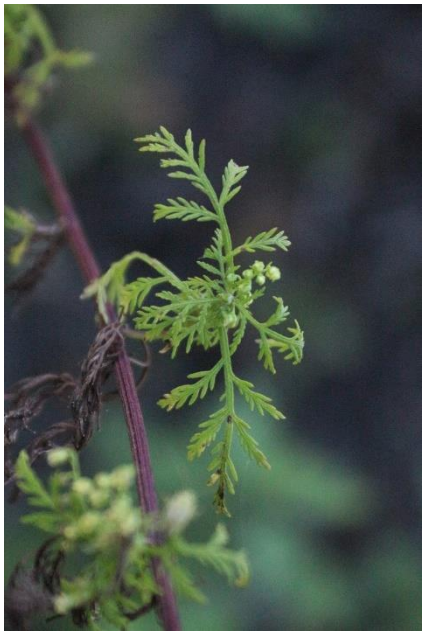
クロヤツシロランとアキザキヤツシロラン　2022.9.28

ヤツシロラン類の生育環境について調べている、東京都立大学の学生と担当教員をご案内しました。
はじめに向かった都立長沼公園（西長泉寺谷戸入口の竹林）は、自身がかつて初めてこの花を見つけた場所ですが、なんとか 1 個体だけ探すことができました。送粉者とされるショウジョウバエの仲間がひっきりなしに何匹もやってきて、花の中に入り込んで長居している子もいたのが印象的でした。目線を下げての観察により、小さなシロウツボホコリも発見。
次に野猿峠にあるアキザキヤツシロランの地区内唯一の自生地へ行ってみました。
目的のアキザキヤツシロランはほとんどが咲き終わり～果実の状態で、新鮮な花は竹林最上段にのみかたまってありました。全体で 60 個体ほどを数えました。そして驚くことに、ここにはアキザキヤツシロランしか無いと思い込んでいたところ、足元で次々とクロヤツシロランの花が見つかり、こちらも約 50 個体ほど確認でき、しかも全て花盛りでした。
また、真っ暗な竹林内では、ホソミイトトンボやキヌガサタケ（またはスッポンタケ）の幼菌なども観察できました。
ここで私も一行も満足し、タイムオーバーとなったので、調査終了としました。研究成果を楽しみに待ちましょう。



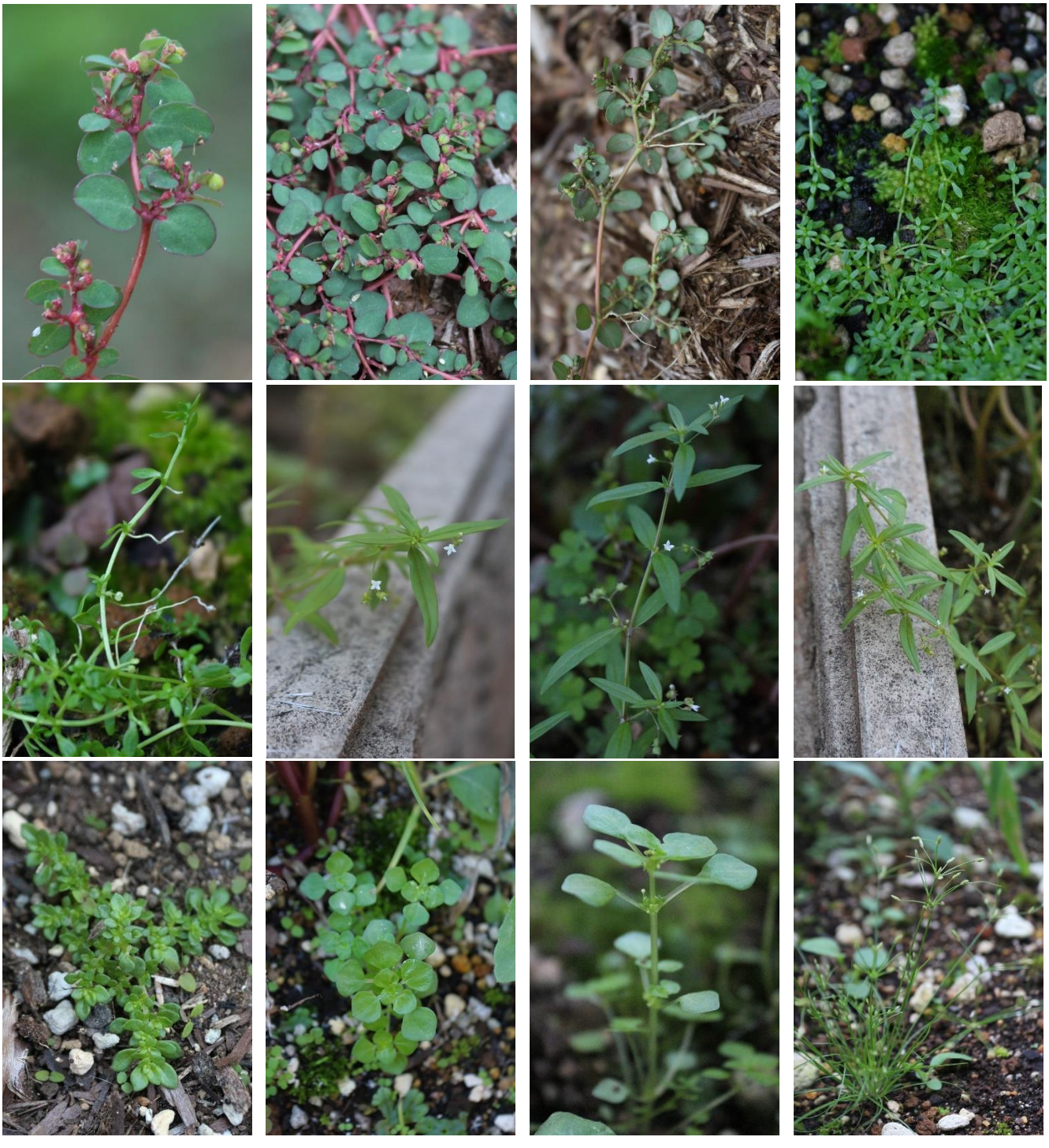
クソニンジン　2022.10.1

夕方、情報を得た野猿峠のクソニンジンを見てきました。法面は草刈りされていて 1 株しか見つかりませんでしたが、ちょうど満開でした。その巨大さと全体に漂う不思議な香りに驚きました！薬科大薬用植物園からの逸出という可能性もゼロではありませんが、距離もあるので、やはり廻りのヒメヨモギやヨモギ類とともに吹付由来ということなのでしょう。
帰りに、昨年 7 月に発見した倉郷谷戸のタウコギ生育地へ。タウコギは周囲の田んぼにも広がり、昨年よりもはるかに数が増えていました。希少種とはいえ、本来はたくましい水田雑草であることを実感しました。

花壇の珍しい雑草　2022.10.2

先日、薬局の帰り道に、南大沢駅近くの駐車場花壇で由木地区新産を含む外来種を複数発見しました。
コバノニシキソウ（全体無毛、茎の途中から発根して這いまわる）、アメリカアワゴケ（葉が細長く、葉腋の果柄が明瞭）、タマザキフタバムグラ（集散花序を持つ）、コゴメミズ、コケミズ（※）、コアゼテンツキ（※）などです。（※都内自生あり。）
こうした見慣れない雑草が集中的に発生している要因は、花壇の園芸用土（培養土）に含まれていた東南アジア産ヤシ殻堆肥に、これら外来種の種子が混入していたのだと推測されます。この現象については、「日本帰化植物写真図鑑第2 巻」のコラムでも言及されています。加えて、この花壇の除草が行われなくなり、周囲のナガエコミカンソウやクルマバザクロソウなどとともに、いつしか脇役である雑草たちが幅を利かせるようになったとみられます。
ルーツはどうであれ、初めて見る植物の数々に、駐車料金なんてちっとも気になりません。



ナメラツリフネソウ　2022.10.11／10.14

短時間ですが、おなじみ長沼公園を歩く機会がありました。観察した植物の備忘録です。
・殿ヶ谷戸入口～ひよどり沢
アケボノソウ満開、トキホコリの新たな群生地発見、ミズ・ツリフネソウほか開花中
・駐車場～栃本尾根北東展望デッキ
タカオコバノガマズミ結実中、オケラ・コシオガマほか開花中、センブリまだ蕾
・駐車場～西長泉寺尾根登り口
アマクサシダ(新産)発見、マルバフジバカマ開花中
また、ひよどり沢のツリフネソウ群落に、ナメラツリフネソウという品種が混じっていることを知人からの情報で知りました。
ツリフネソウはふつう、花軸の下部に赤茶色の突起毛がびっしり生える特徴を持ちますが、ナメラツリフネソウは“滑ら”の名が示すとおり、全く毛が無くツルッとしています。確かにこの場所では両者が混生していることを確認しました。
来年は他の生育地でも調べてみたいと思います。

ネキトンボ　2022.10.19

10 月の NHK 講座は、多摩センターから唐木田まで、街なかの自然を散策しました。
コースは多摩センター駅→パルテノン多摩ミュージアム見学→ヤギレンジャーの草地→長谷エビオトープ見学→鶴牧西公園→唐木田駅です。秋らしい爽やかな陽気で、生き物たちの動きも活発。今日は小さな虫からカラスまで、目に付くものは全てが観察対象であり、解説も忙しくなりました。
昼食後は芝生の自然の楽しみ方として、2 つのトピックを紹介しました。公園樹を自然樹形から見分ける方法と、芝生に生える雑草の生活史の話です。少しずつですが、こういう機会に引き出しが増えていきます。
鶴牧西公園の人工池には、驚くことにネキトンボが複数個体いました。翅の付け根が色付くのはショウジョウトンボと同じですが、体はより細く、胸に黒い筋が入る点がポイントです。赤トンボの中では比較的珍しい種類で、私も久々に出会いました。(※あとで「東京都のトンボ」の市町村別目録で調べると、多摩市初記録でした。)試しに私が人差し指を付き出してみると、すぐに指の上に止まってくれて、皆さんで撮影大会となりました。
また、公園外周部の林縁ではアキノキリンソウ、シラヤマギク、ユウガギク、カシワバハグマ、コウヤボウキ、ヤクシソウ、マルバフジバカマ、ニガクサなどが花盛り。後半は、街なかの植物だけでなく、里山らしい秋の野花もしっかり観察できました。帰りにはヤノネボンテンカやナンバンカラムシのおまけも付いて、充実の散策となりました。

斑入りのコチヂミザサ　2022.10.23

2 歳 9 ヶ月の娘が初めて「お山登りに行きたい！」と言うので、由木城址（金峰山永林寺）に連れて行きました。
頑張って自分の足で歩く姿を見て、成長を感じました。道中はウラギンシジミやホソミイトトンボなどに出会いました。
林の小径沿いで、葉に模様が入ったコチヂミザサを発見。チヂミザサ類の斑入り品はありそうで見かけない感じがします。
これまで見逃していたウラジロガシも見つかり、やはり、何度も何度も足を運ぶことが大切だと改めて思ったのでした。

センブリ　2022.10.31

都立長沼公園のススキ草地でセンブリが開花していました。花を咲かせていたのはわずか 4 個体。それでも、由木周辺では、センブリの自生地自体がだいぶ少なくなってしまったので貴重な 4 株です。
すぐそばではエビヅルの葉が真っ赤に色付き、ホウネンタワラチビアメバチの可愛い卵嚢も見つかりました。
秋の花シーズンは終盤となり、カントウヨメナやシラヤマギクなど野菊の咲き残りが目に付いたくらいでした。
冬はもうすぐそこ。渡ってきて間もないジョウビタキの声に見送られ、夕暮れの里山を後にしました。

ヒロハイヌワラビ　2022.11.3

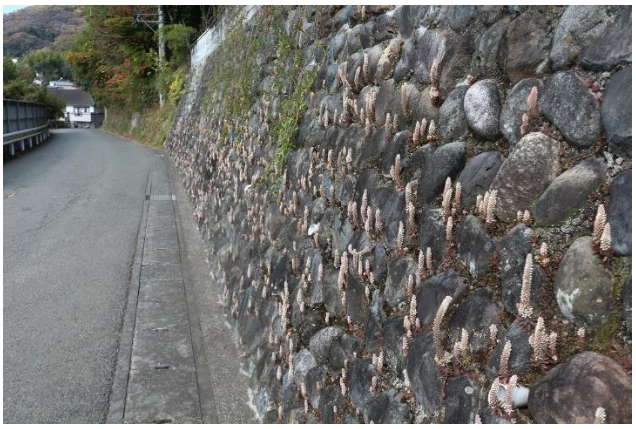
町田市の三輪緑地へ用事があり、少し自然観察もしてきました。
草むらを飛び交うウラナミシジミやノハラアザミの花に群がるクチナガガガンボが目にとまりました。
樹林内の広場には木漏れ日が差し込み、とても幻想的でした。
これまで奥まで入っていなかった小さな枝沢を進むと、当地初確認のヒロハイヌワラビが 1 株見つかりました。
三輪緑地では、昨年からオオクジャクシダ、ハコネオオクジャク（いずれも町田市新産）、サイゴクイノデなどの珍しい暖地性シダが新たに発見されています。今後もさらなる新産種の発見に期待が高まりますね。

皆既月食(天王星食) 2022.11.8

皆既月食の観察会、パーキッズに混ざって参加してきました。皆既月食だけでなく、木星の模様や衛星まで！
とても楽しい時間を過ごすことができました。子どもたちはこの日の光景を忘れないでしょう。
話は変わりますが、昨年の 12/6、今年の 4/23 に続き、11/10 の 19 時半頃に自宅でヒナコウモリの鳴き交わしを確認。
やはり渡り鳥と同じで春先と晩秋にこの辺りを通過しているようです。(※その後約 2 週間、継続して確認されました。)
また、10 月末から 11 月 1 週目にかけて、夜中に様々な渡り鳥のフライトコールが聴こえました。
珍しい種類では、マミチャジナイやキアシシギなども。知らないだけで、凄い数の鳥が夜空を通過しているのでしょうね！

ツメレンゲ　2022.11.9

ブログの情報を頼りに、相模湖方面でツメレンゲの大群落を見ることができました。
古い石積みの一面ににょきにょきと生えるその姿は壮観でした。
付近を歩いてみると、アワコガネギク、イヌヨモギ、クロヤツシロラン、ナガオノキシノブなども見つかりました。
他の季節にもゆっくり歩いてみたくなる、素敵な集落でした。



キッコウハグマ　2022.11.16

11 月の NHK 講座は狭山丘陵の東端、多摩湖畔にある都立狭山公園周辺を歩きました。
種々の紅葉をはじめ、アオハダやイチョウの黄葉、色とりどりの木の実、冬越し前のゴマダラチョウなどの生き物、
返り咲きするコスミレ、コバノイシカグマの小群落、渡ってきたばかりのカモ類などなど、晩秋の自然を堪能しました。
場所がら、ユネスコ村や西武園ゆうえんちなど、懐かしのレジャースポットの話題でも盛り上がりました。
講座の後半は、秋の野花を求めて西武園ゆうえんち裏の林道を一回りしました。
林縁の切り通しにキッコウハグマの開放花がいくつも咲いていました。
本種は由木でもあちこちで見かけますが、ほとんどが閉鎖花のまま自家結実してしまうので、開放花は滅多に見ません。
開放花は、5 枚のねじれた花びらからなる小花が 3 つ集まり、見かけ状は 15 枚の花びらが風車のように並んでいます。
この小さくて可憐な姿に夢中になるあまり、ヤマウルシの葉っぱにがっつり突っ込んでしまいました。
すぐに首がヒリヒリしてきて、真っ赤にかぶれてしまいました。このパターン、何回目だろう、、

ピンク色のハキダメギク　2022.12.3

下の子が入院することになり、待ち時間に東海大附属病院（石川町）の近くで娘を連れて散歩しました。
どんぐりを拾っていると、ピンクの舌状花(花びら)を持つハキダメギクを見つけました。
ハキダメギク自体はどこにでもありますが、白しか見たことがなかったのでびっくり。
リュウノウギクのように、散る直前になって色付くことがあるのかもしれません。

カベイラクサ　2022.12.14

東中野駅付近、JR 線路脇の路傍に外来種のカベイラクサ（ヨーロッパヒカゲミズ）が群生していることに気が付きました。
非常勤講師を務める専門学校の最寄り駅であり、これまでも何度となく通っているのに見逃していました。
類似のゴウシュウヒカゲミズやオオヒカゲミズとは、苞葉の形や痩果の色で見分けられるそうです。
ちなみに国内で最初に見つかったのは横浜で、私が生まれたのと同じ 1987 年でした。
図鑑で見て知っていて自分がまだ見たことの無い雑草と、ふとした時に出会えた瞬間はいつもゾワッとします。
学生が見つけてくれた路地裏のキカラスウリの果実も見事でした。

ヒメハジロ　2022.12.20

この 1 週間、方々からヒメハジロ飛来の情報が寄せられ、羨ましく思っていました。
「一生に一度かもよ」という囁き(幻聴)がどこからともなく聞こえてくる始末で、
最終的に同僚スタッフの速報に背中を押されて 20 日に見に行ってきました。
午後イチで緑地作業へ戻らなければならず、昼休みに弾丸で決行。
ヒメハジロのいる一ノ宮公園(聖蹟桜ヶ丘)まで、往復 30 分、捜索開始から 10 秒で発見、観察できた時間は 15 分。
こんなに時間も労力もかけない野鳥観察をしてもいいのだろうかと、複雑な思いですが、
これも地道に観察を続けてきた地元バーダーのおかげであり、
何より、アメリカから突如来日したヒメハジロの圧倒的な存在感が全てを払拭してくれたのでした。
雪だるまみたいな頭と、光の具合で緑や紫に輝く美しい顔、しっかり目に焼き付けました。
それにしても、日本一小さな海ガモとして知られるヒメハジロがなぜこんなところに？
・・もしかして、オオバン集団が連れてきた“みにくいアヒルの子”はタマちゃんになって一躍脚光を浴びたかったのかも。
観察中は、頭上をハイタカが舞い、足元にはタヒバリの姿も。
ヒメハジロと砲兵連隊がいなくなったら、今度はゆっくり鳥散歩してみたくなる心地よい場所でした。

河川敷の野鳥　2022.12.21

12 月の NHK 講座は羽村へ出かけました。駅から玉川上水取水口を経由し、浅間岳山頂まで足を伸ばすコースです。
河川敷は鳥だらけで、持参したフィールドスコープが大活躍でした。
チョウゲンボウ、ハイタカ、ノスリ、オオタカ、トビの猛禽 5 種盛りをはじめ、
イソシギ、タシギ、イカルチドリ、カワセミ、シメ、モズ、ジョウビタキなどなどじっくりと観察し、途中、疥癬のタヌキにも遭遇。
植物は、羽村を代表する名花カワラノギクのほか、草花丘陵ではカントウカンアオイ、イラクサ、ハナミョウガ、
オオカナワラビ、シケチシダ、ササクサなどが見られ、マルバウツギとコアジサイがやたらに多いのも印象的でした。
行きと帰りでルートを少し変え、石垣のトキワトラノオ群落や神社境内のサカキやスダジイなどに寄り道しました。
この時期にしては暖かい一日で、皆さんと気持ち良く歩くことができました。

ルベラナズナ　2022.12.26

別所小学校へ打ち合わせに出かけた帰り、校庭の花壇を覗いてみると、
ナズナにごく近縁の帰化植物、ルベラナズナが群生していました。
果実の左右のラインが内側に少し湾曲するのが特徴です。
類似のホソミナズナと合わせて、よく探せばもっとあちこちで見つかるのではないかと思います。
また、帰りにイソヒヨドリ（雄の第１回冬羽）が校舎の手すりに止まっていました。
今年、学校の向かいにあるショッピングモールの屋上で育った子かもしれませんね。
校庭の自然を楽しんでいたら、打ち合わせの内容をすっかり忘れてしまいました。（嘘）。